

## 輸血療法委員会

委員長 砥谷 和人

---

### 活動内容

輸血療法委員会は、高知県合同輸血療法委員会と連携を保ちながら、「適正輸血の推進」を実践する事を目標とし、病院長、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務、外部委員（高知県赤十字血液センター）などの輸血に関わる多部門のメンバーで構成され、隔月に開催しています。本年度は採血時の患者間違いによる血液型誤判定の事例が発生したため、当委員会で原因の究明と対応策を協議しました。今回の事例は幸い大事には至りませんでしたが、このニアミス事例を検証した結果、部署によって採血時の患者認証手順に逸脱があることが判明しました。正しい血液型の製剤を、正しい患者さんに輸血するためには多くの手順が必要であり、航空機の運航に例えられます。航空機事故が離陸時と着陸時に多いのと同様に、輸血過誤も、血液型採血時と輸血時に多いことが分かっています。当院は輸血（着陸）時の対応は十分なされていることが昨年の視察（I & A）で確認されていましたが、今回の事例で血液型採血（離陸）時の患者認証や採血管間違い(WBIT; wrong blood in tube)が起きやすい要素があるようです。WBITはPDA認証を行っても一定の割合で発生することが報告されており、そのため血液型は2回行う必要がある（two sample rule）とされています。Two sample ruleが現場で曲解され、同じサンプルを2つに分けて出される事例があるようです。そのため医療安全部に相談し、血液型とクロスマッチ採血の同時採血禁止を促す院内ポスターの掲示も行っていました。

2025年の各輸血用血液製剤・アルブミン使用量、タイプ&スクリーニング件数、自己血輸血、副作用報告を以下に示します。輸血製剤の使用量は16246単位で、廃棄率は0.3%でした。廃棄率はここ数年低い値で維持できていますが、近年献血量の減少が続いており、引き続き適正な輸血療法の実施と、廃棄量の削減にご協力をお願いします。本年は重症アレルギー症例が1例発生し、回復していますが、引き続き輸血後の状態観察等に注意をお願いします。このように頻度は低いですが重篤な副作用が起り得ることを、輸血前同意書で確認しつつ、安全で適正な輸血療法の遂行にご協力お願いいたします。

輸血用血液製剤 使用量・廃棄率（2016～2025 年の推移）

2025 年の輸血用血液製剤使用量は 16246 単位で、廃棄率は 0.3％でした。

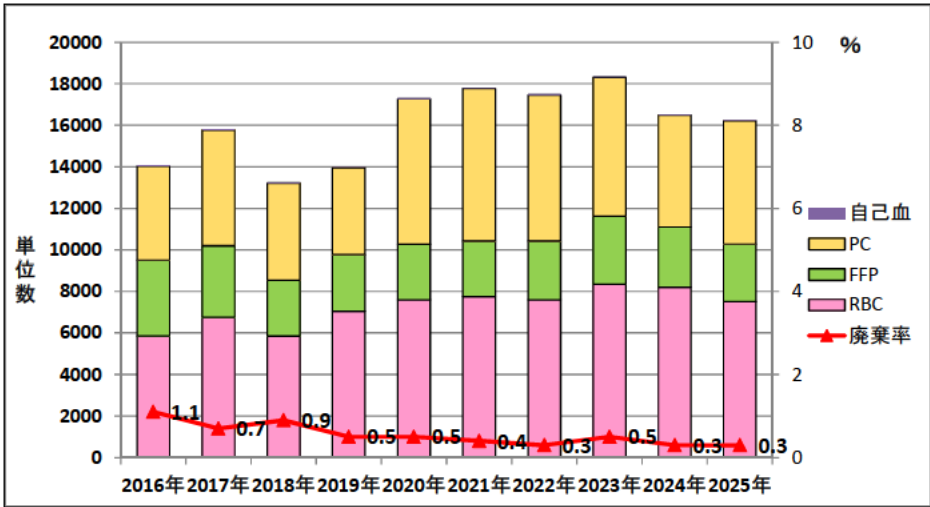


図 1

輸血用血液製剤 科別使用量

RBC（赤血球液）は、循環器内科の使用量が 1424 単位と最多で、次いで消化器内科、救急科と続いています。FFP（新鮮凍結血漿）の使用量は心臓血管外科の 670 単位、PC（濃厚血小板）の使用量は血液内科の 2740 単位が最多でした。

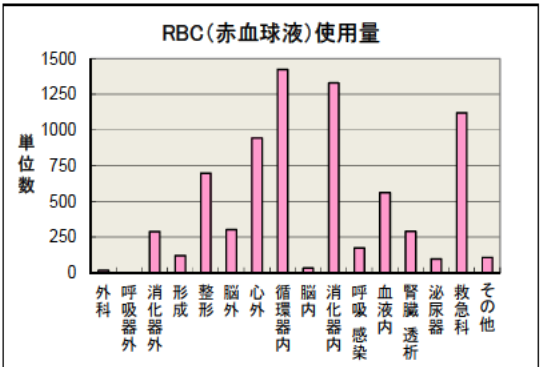


図 2

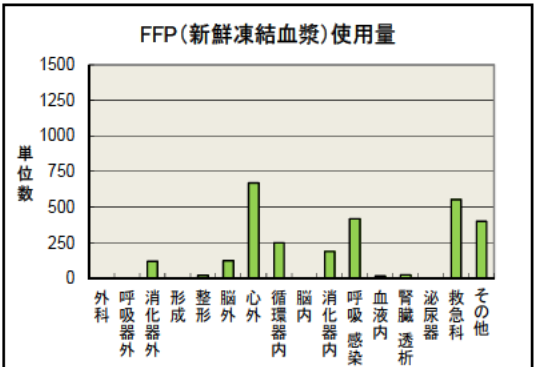


図 3

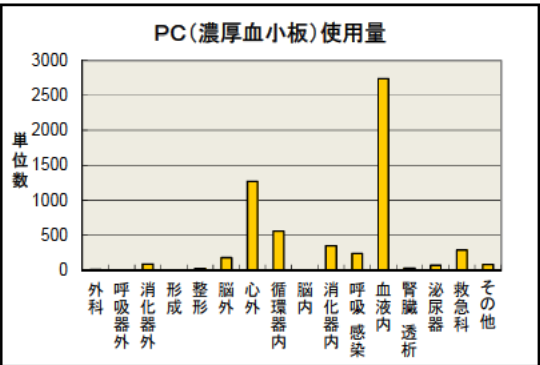


図 4

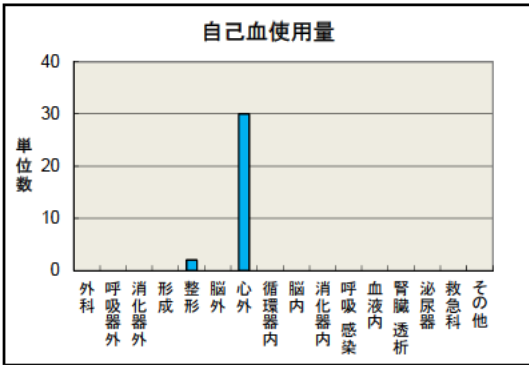


図 5

アルブミン製剤 使用量

2025 年の総使用量は昨年に比べて減少しています。

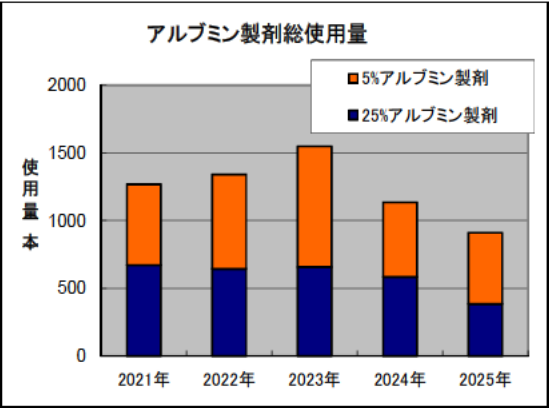


図 6

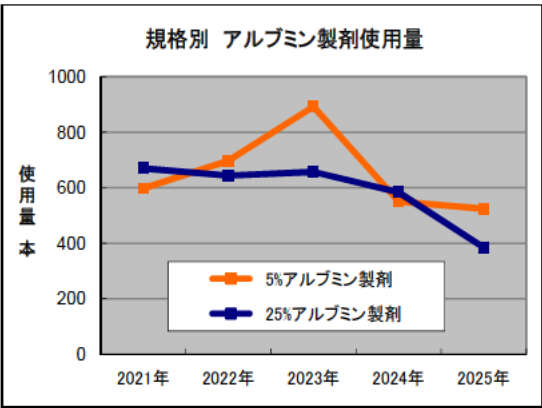


図 7

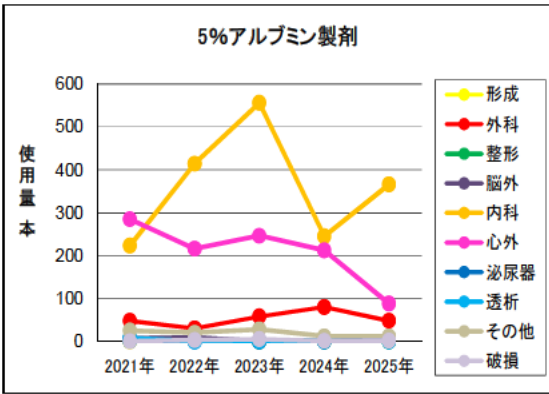


図 8

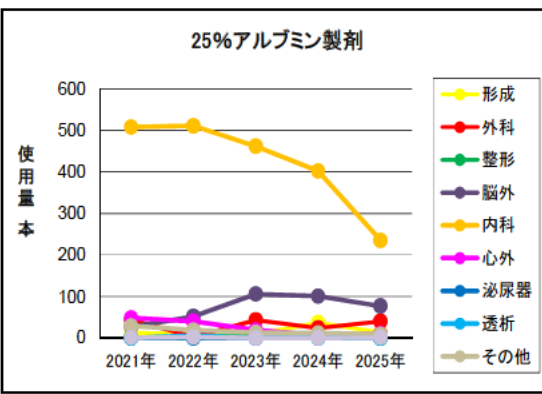


図 9

タイプ&スクリーン（T&S）件数

2025 年の依頼件数は 1181 件、使用率は 11%でした。診療科別の依頼件数では、整形外科が多く、次いで消化器外科、心臓血管外科と続いています。

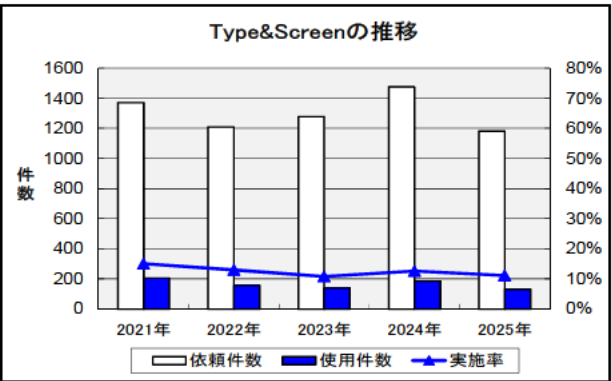


図 10

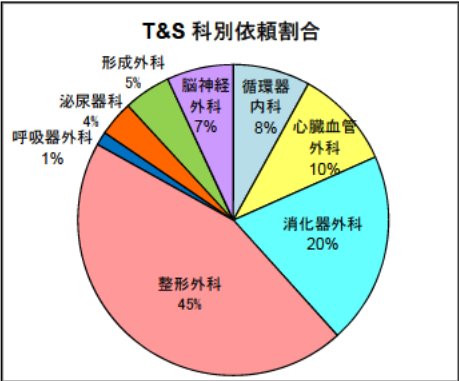


図 11

自己血件数

2025 年は心臓血管外科手術（開胸・開腹術）163 件、整形外科手術 115 件、合計 278 件に回収式自己血を施行しました。一方、貯血式自己血は 19 件でした。

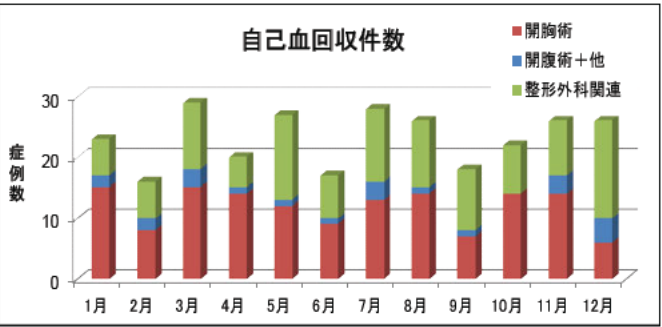


図 12

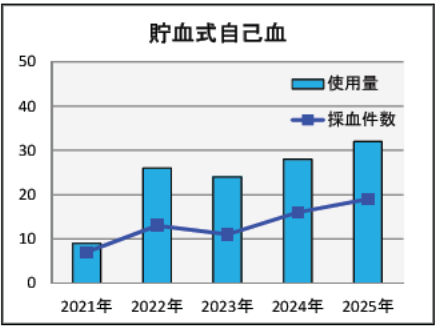


図 13

副作用報告

発生率は 2.0%で、重症アレルギーが 1 件発生しました。

表 1

| 副作用  |     |      | 使用量  |       |
|------|-----|------|------|-------|
| バック数 | 実人数 | 発生率  | バック数 | 単位数   |
| 104  | 33  | 2.0% | 5163 | 16246 |

【製剤別】

|     |    |    |      |      |      |
|-----|----|----|------|------|------|
| RBC | 47 | 25 | 1.3% | 3759 | 7504 |
| FFP | 39 | 12 | 4.9% | 793  | 2780 |
| PC  | 18 | 10 | 3.0% | 594  | 5930 |
| 自己血 | 0  | 0  | 0.0% | 17   | 32   |

| 副作用項目     |              | 副作用件数 |     |     |
|-----------|--------------|-------|-----|-----|
|           |              | RBC   | FFP | PC  |
| A.非溶血性副作用 |              | 53件   | 54件 | 20件 |
| 症状項目      | ①1℃以上の発熱     | 11    | 0   | 2   |
|           | ②蕁麻疹         | 12    | 22  | 6   |
|           | ③悪寒          | 3     | 0   | 0   |
|           | ④戦慄          | 1     | 0   | 0   |
|           | ⑤冷汗          | 0     | 0   | 0   |
|           | ⑥発疹          | 8     | 12  | 5   |
|           | ⑦掻痒感         | 2     | 7   | 2   |
|           | ⑧悪心          | 1     | 0   | 0   |
|           | ⑨嘔吐          | 0     | 0   | 0   |
|           | ⑩胸痛          | 0     | 0   | 0   |
|           | ⑪顔面紅潮        | 3     | 7   | 0   |
|           | ⑫血圧低下        | 0     | 0   | 0   |
|           | ⑬アナフィラキシー様反応 | 0     | 0   | 0   |
|           | ⑭ショック        | 0     | 0   | 0   |
|           | ⑮ヘモグロビン尿     | 0     | 0   | 0   |
|           | ⑯その他         | 12    | 6   | 5   |
| B.溶血性副作用  |              | 0件    | 0件  | 0件  |
| 急性溶血      |              |       |     |     |
| 遅延性溶血     |              |       |     |     |
| C.輸血後感染症  |              | 0件    | 0件  | 0件  |
| HBV       |              |       |     |     |
| HCV       |              |       |     |     |
| HIV       |              |       |     |     |
| その他       |              |       |     |     |
| 合計(件)     |              | 53    | 54  | 20  |

注：件数は全てバック当たりとします。ただし、A)の症状項目のみは重複可とします。